

地理歴史

(地図)

発行者の番号略	教科書の記号番	判型	総ページ数	検定済年
2 東書	地図301	B5	154	平成24年
46 帝国	地図309	A4	160	平成28年
46 帝国	地図310	AB	174	
130 二宮	地図311	AB	174	
130 二宮	地図312	A4	150	
46 帝国	地図313	AB	174	平成29年
130 二宮	地図314	B5	152	
130 二宮	地図315	A5	224	

※総ページ数は、目録に記載されている数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

地図		冊数	8冊
発行者の略称・教科書の番号	東書301 帝国309 帝国310 二宮311 二宮312 帝国313 二宮314 二宮315		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【地理歴史の目標】

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

【地理Aの目標】

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

【地理Aの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ア 地球儀や地図からとらえる現代世界 イ 世界の生活・文化の多様性 ウ 地球的課題の地理的考察	(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 (略) イ 地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。 (略) ウ 地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。 (略) オ 各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。
(2) 生活圏の諸課題の地理的考察 ア 日常生活と結び付いた地図 イ 自然環境と防災 ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	(2) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 内容の(1)アの日本の位置と領域については、世界的視野から日本の位置をとらえるとともに、日本の領域をめぐる問題にも触れること。(略)

【地理Bの目標】

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

【地理Bの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 様々な地図と地理的技能 ア 地理情報と地図 イ 地図の活用と地域調査	(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 (略) イ 地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。
(2) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境 イ 資源、産業 ウ 人口、都市・村落 エ 生活文化、民族・宗教	ウ 地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

(3) 現代世界の地誌的考察 ア 現代世界の地域区分 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本	(略) オ 各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。 (2) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。(略) イ 「内容」の(2)については、分析、考察の過程を重視し、現代世界を系統地理的にとらえる視点や考察方法が身に付くよう工夫すること。エについては、領土問題の現状や動向を扱う際に日本の領土問題にも触れること。 (略)
--	---

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調 査 項 目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 主題図の図数	地理A地理B内容（1）	個
b 州・大陸（日本）別に取り扱っているページ数及び全体に占める割合	地理A地理B目標及び内容の取扱い《(1)オ日本の取扱い》	ページ %
c 地図の読み取りや考察の視点を扱っている箇所数	地理A地理B指導計画の作成と指導上の配慮事項	個
d 自然災害や防災を取り扱っている図数	地理A内容(2)イ	個

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

d 自然災害や防災を扱っている図名

<その他>

- * 我が国の領域をめぐる問題の扱い
- * 国旗・国歌の扱い
- * 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査の結果、記載がないことを確認した。）
- * 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（調査の結果、記載がないことを確認した。）
- * 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い
- * オリンピック、パラリンピックの扱い

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に定められた「内容」に「国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる」とあることから、各教科書を比較検討するために上記dの事項を調査する。
- * 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌については、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- * 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- * 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。
- * 学習指導要領に基づき、環境に係る諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱いについて調査する。
- * 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫 (調査結果は「別紙3」)

- ① コラム・資料・トピックスの扱い方
- ② 視覚的資料(写真、図・イラスト、グラフ、表など)
- ③ ゴシック等の用語
- ④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(地図)

調査項目			a		b														c		d	
			主題図の図数		及取州 び扱・ 全つ大 体陸 にい(一 占る日 める本 割ジ別 合数に														点地 を図 扱の つ読 てみ 取 り や 考 察 の 視 点		て自然 いる災 害 や 防 災 を 取 扱 つ	
					日本		アジア		ヨーロッパ		アフリカ		北アメリカ		南アメリカ		オセアニア					
発行者	教科書番号	教科書名	個	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	個	個			
東書	301	新高等地図	262	25	16.2	25	16.2	19	12.3	5	3.2	14	9.1	6	3.9	4	2.6	13	3	154		
帝国	309	標準高等地図 -地図でよむ現代社会-	192	32	20.0	25	15.6	18	11.3	4	2.5	12	7.5	5	3.1	7	4.4	43	1	160		
帝国	310	新詳高等地図	299	28	16.1	32	18.4	25	14.4	7	4.0	15	8.6	7	4.0	8	4.6	24	6	174		
二宮	311	詳解現代地図	323	30	17.1	30	17.1	20	11.4	8	4.6	13	7.4	6	3.4	4	2.3	8	10	175		
二宮	312	基本地図帳 改訂版	189	36	24.0	19	12.7	17	11.3	6	4.0	11	7.3	6	4.0	4	2.7	0	4	150		
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景-	265	46	26.4	38	21.8	25	14.4	6	3.4	11	6.3	6	3.4	6	3.4	61	6	174		
二宮	314	高等地図帳 改訂版	175	32	20.3	27	17.1	19	12.0	9	5.7	11	7.0	7	4.4	6	3.8	0	4	158		
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	136	32	13.9	32	13.9	25	10.9	13	5.7	13	5.7	9	3.9	5	2.2	0	0	230		
平均値			230.1	32.6	19.0	28.5	16.6	21.0	12.2	7.3	4.2	12.5	7.3	6.5	3.8	5.5	3.2	18.6	4.3			

・全体のページ数は見返しと裏見返し等を含めている。

・aは、主題図の数を数えた。一般図に土地利用区分を含めている場合は主題図として数えた。

・bは州・大陸(日本)別に取扱っているページ数と全体のページ数に対する割合を小数点第2位で四捨五入した値である。一般図が複数の州・大陸にまたがる場合はそれぞれ

・cは、地図の読み取りや考察の視点を扱っている箇所を数えた。

・dは、自然災害や防災を扱っている主題図を数えた。自然環境のみを扱っている主題図は数えていない。

「別紙2-1」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 d 自然災害や防災を扱っている図名】 (地図)

発行者	教科書番号	教科書名	自然災害や防災を扱っている図名
東書	301	新高等地図	P.97 ・「世界の主な自然災害」「日本の主な自然災害」「埼玉県志木市のハザードマップ」
帝国	309	標準高等地図 -地図でよむ現代社会-	P.101 ・「世界の地震と火山」
帝国	310	新詳高等地図	P.140 ・「おもな地震の震源と火山, 活断層」「津波ハザードマップ-尾鷲市-」「東北地方太平洋沖地震と津波」「断面の模式図」 P.144 ・広島土砂災害時の土砂流出状況と土地条件をデジタル地図上に重ねた図 P.173 ・「世界の地震と火山」
二宮	311	詳解現代地図	P.14 ・「世界の自然災害」「1997年～98年の異常気象」「エルニーニョ現象などに対する監視海域」 P.38 ・「タイの洪水」「洪水と日系企業の被害」 P.41 ・「バングラデシュの水害」 P.144 ・「火山」「日本の地体構造と地震」 P.145 ・「東北太平洋沖地震の震度分布」「津波の伝播」
二宮	312	基本地図帳 改訂版	P.108 ・「プレート・プレート境界と地震・火山」 P.113 ・「世界の自然災害」「火山」「日本の地体構造と地震」
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景-	P.136 ・「日本の地震と火山の噴火」「巨大地震の歴史と教訓」「巨大地震の震源域-南海トラフ～駿河トラフ-」「水を治める一山梨県信玄堤一」 P.173 ・「世界の地震と火山」「プレートテクトニクス」
二宮	314	高等地図帳 改訂版	P.5 ・「世界の自然災害」 P.108 ・「火山」「日本の地体構造と地震」 後ろ見返し ・「プレート・プレート境界と地震・火山」
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	なし

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 我が国の領域をめぐる問題の扱い】 (地図)

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要
東書	301	新高等地図	(P.98地図『日本の位置』) ・日本の領域として北方領土が示されており、日本の北端として北緯45° 33′ を記載している。	(P.98 地図『日本の位置』) ・日本の領域として竹島の位置が示されている。	(P.98 地図『日本の位置』) ・日本の領域として尖閣諸島の位置が示されている。
帝国	309	標準高等地図 -地図でよむ現代社会-	(P100 千島列島だけの地図を掲載) ワンポイント 「ウルップ島からシュムシュ島まで現在は帰属が未定」	(P133) ・地図上に位置が明示してある。 (P134) ・記述で「第二次世界大戦後、日本は「済州島、巨文島を含む朝鮮」を放棄したが、ここに竹島は含まれていないとしている。だが韓国は放棄したとして1954年以来警備隊を常駐させ、不法に占拠している。」と記載している。 ・海域の詳細な地図や竹島の写真が掲載 ・歴史年表を掲載	(P74 ワンポイント解説 魚釣島) 「明治時代には鯉節工場が操業し、200名以上暮らしていた」 (P133) 地図上に位置が明示してある。 (P134) ・記述で「第二次世界大戦後、1972年に沖縄返還協定により、アメリカ合衆国から返還された。近年、中国の監視船などが領海侵犯を繰り返しているが、日本政府は、尖閣諸島は日本固有の領土であり、日本がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在しない」としている。また、海底油田についても記載されている。 ・魚釣島など写真が掲載
帝国	310	新詳高等地図	(P93地図『日本固有の領土』) ・北方領土の変遷として、日露和親条約 樺太千島交換条約 ポーツマス条約 サンフランシスコ平和条約による国境の変遷を明示 (P94地図『日本の位置とまわりの国々』) ・日本の領域として北方領土を示し、日本の北端として、北緯45° 33′ と記載している。 (P94地図『日本の位置とまわりの国々』、P118地図『千島列島』) ・ウルップ島からシュムシュ島までの地域と、樺太の北緯50度以南の地域はかつて日本が領有していたが、現在は帰属が未定になっている。 (P155統計資料『都道府県別統計』注記) ・面積の項の北海道には歯舞群島95km ² 、色丹島248km ² 、国後島1,489km ² 、択捉島3,167km ² を含み、島根県には竹島0.2km ² を含む。全国計にも。	(P93地図、写真『日本固有の国土』) ・竹島の写真と東島西島の構成を明示 (P94地図『日本の位置とまわりの国々』) ・日本の領域として、竹島を表示している (P155統計資料『都道府県別統計』注記) ・面積の項の北海道には歯舞群島95km ² 、色丹島248km ² 、国後島1,489km ² 、択捉島3,167km ² を含み、島根県には竹島0.2km ² を含む。全国計にも。	(P93地図、写真『日本固有の国土』) ・尖閣諸島の写真と、魚釣島、南小島、北小島、大正島の構成を明示 (P93地図『日本の位置とまわりの国々』) ・日本の領域として、竹島を表示している。

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要
二宮	311	詳解現代地図	<p>(P102地図『日本の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の領域として北方領土が示されており、日本の北端としてカモイワッカ岬の緯度経度と写真を掲載している。 <p>(P129コラム『北方領土問題』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後で日本が敗れた結果、発生した日本の北辺の領土に関する問題。択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島は第二次大戦終了後事実上ソビエト連邦(現ロシア)に占領されているが、日本固有の領土であり、日本が強く返還を要求している。 <p>(P129地図『日露通好条約』)</p> <p>(P129地図注記『日露通好条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1855年(安政元年)伊豆下田において「日露通好条約」が締結され、日露両国の国界が択捉島と得撫島の間に決められた。樺太は今まで通り国界を定めず、両国民混住の地とされた。 <p>(P129地図『樺太千島交換条約』)</p> <p>(P129地図注記『樺太千島交換条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1875年(明治8年)日本は樺太千島交換条約を結び、樺太を放棄する代償として、千島列島を譲渡された。この条約では譲渡される島々の名を列挙しているが、択捉島以南の北方四島は含まれていない。 <p>(P. 129地図『ポーツマス条約』)</p> <p>(P. 129地図注記『ポーツマス条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1905年(明治38年)日露戦争終了後に、ポーツマス条約締結。北緯50度以南のサハリン南部(南樺太)が日本の領土となる。 <p>(P. 129地図『サンフランシスコ平和条約』)</p> <p>(P. 129地図注記『サンフランシスコ平和条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1951年(昭和26年)日本は「サンフランシスコ平和条約」に調印。日本固有の領土である北方四島を除く千島列島と南樺太の権利・請求権を放棄したが、ソ連は同条約のアメリカ原案と対立し、調印せず。日ソ間での同地域の帰属問題は未決着。 <p>(P. 129地図『北海道』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道に属する択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島として示されている。 <p>(P. 158注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道の面積には、北方領土を含む。全国の人口密度は、北方領土(5,041.9km²)の面積を含む。 	<p>(P102地図『日本の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の領域として竹島が示されている。 <p>(P158注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> 島根県の面積には竹島を含む。全国の人口密度は、竹島0.21km²の面積を含む。 	<p>(P102地図『日本の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の領域として尖閣諸島が示されている。 <p>(P158注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の人口密度は、尖閣諸島5.56km²の面積を含む。

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 我が国の領域をめぐる問題の扱い】 (地図)

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要
二宮	312	基本地図帳 改訂版	P105 千島列島だけの地図を掲載	P77 ・竹島 島根(隠岐の島町)と記載 P80 ・竹島だけを取り上げた地図	P75 ・尖閣諸島 石垣市と記載
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的 背景-	(P85地図『日本の位置とまわりの国々』) ・日本の領域として北方領土を示し、日本の北端として北緯45° 33'を記載している。(P86写真『日本の北端』) (P85地図注記『日本の位置とまわりの国々』) ・ウルップ島からシュムシュ島までの地域と、樺太の北緯50度以南の地域はかつて日本が領有していたが、現在は帰属が未定になっている。 ・択捉島の市街地の様子を掲載している。 (P86地図『北方領土の変遷』) ・日本とロシア・ソ連の国境の変遷に関する4枚の地図を掲載している。 (P129地図『蝦夷地と樺太の探検』) ・最上徳内、近藤重蔵、間宮林蔵の探検者とルートが示されている。 (P130地図注記『千島列島』) ・ウルップ島からシュムシュ島までの地域はかつて日本が領有していたが、現在は帰属が未定になっている。 (P157注記) ・面積の項の北海道には歯舞群島95km ² 、色丹島248km ² 、国後島1489km ² 、択捉島3167km ² を含み、(中略)全国計にも含む。	(P85地図『日本の位置とまわりの国々』) ・日本の領域として竹島の位置を示している。 (P86地図『竹島とその位置』) ・竹島及び東島、西島の位置を示している。 (P86年表『竹島をめぐる動き』) ・「おもなできごと」として、歴史年表を掲載している。 (P157注記) ・面積の項の(中略)島根県には竹島0.2km ² を含む。全国計にも含む。	(P85地図『日本の位置とまわりの国々』) ・日本の領域として尖閣諸島の位置を示している。 (P86地図『尖閣諸島とその位置』) ・尖閣諸島及び各島の位置を示している。 (P86年表『尖閣諸島をめぐる動き』) ・「おもなできごと」として、歴史年表を掲載している。
二宮	314	高等地図帳 改訂 版	(P78地図『日本の位置』) ・日本の領域として北方領土が示されており、日本の北端としてカモイワッカ岬の緯度経度と写真を掲載している。 (P125表『日本のおもな島』) ・「日本のおもな島」として、択捉島、国後島が掲載されている。 (P136注記) ・北海道の面積には、北方領土を含み、島根県の面積には竹島を含む。全国の人口密度は、北方領土5041.91km ² 、竹島0.21km ² 、尖閣諸島5.56km ² の面積を含む。	(P78地図『日本の位置』) ・日本の領域として竹島が示されている。 (P136注記) ・北海道の面積には、北方領土を含み、島根県の面積には竹島を含む。全国の人口密度は、北方領土5041.91km ² 、竹島0.21km ² 、尖閣諸島5.56km ² の面積を含む。	(P78地図『日本の位置』) ・日本の領域として尖閣諸島が示されている。 (P136注記) ・全国の人口密度は、北方領土5041.91km ² 、竹島0.21km ² 、尖閣諸島5.56km ² の面積を含む。

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	<p>(P29『ロシア連邦』本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦では日本に侵入し、国後(くなしり)島・択捉(えとろふ)島など、北方領土を占領したまま現在に至っており、日本との間に領土問題を残している。 <p>(P112『日本の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域として北方領土が示されており、日本の北端としてカモイワッカ岬の緯度経度と写真を掲載している。 <p>(P144コラム『北方領土問題』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島は第二次世界大戦後事実上ソビエト連邦(現ロシア連邦)に占領されているが、日本の固有の領土であり、日本は強く返還を要求している。 <p>(P144地図『1855年』)</p> <p>(P144地図注記『日露通好条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1855年(安政元年)伊豆下田において「日露通好条約」が締結され、日露両国の国界が択捉島と得撫島の間に決められた。樺太は今まで通り国界を定めず、両国民混住の地とされた。 <p>(P144地図『1875年』)</p> <p>(P144地図注記『樺太千島交換条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1875年(明治8年)日本は樺太千島交換条約を結び、樺太を放棄する代償として、千島列島を譲渡された。この条約では譲渡される島々の名を列挙しているが、択捉島以南の北方四島は含まれていない。 <p>(P144地図『1905年』)</p> <p>(P144地図注記『ポーツマス条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1905年(明治38年)日露戦争終了後に、ポーツマス条約締結。北緯50度以南の南樺太が日本の領土となる。 <p>(P144地図『1951年』)</p> <p>(P144地図注記『サンフランシスコ平和条約』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1951年(昭和26年)日本は「サンフランシスコ平和条約」に調印。日本固有の領土である北方四島を除く、千島列島と南樺太の権利・請求権を放棄したが、ソ連は同条約のアメリカ原案と対立し調印せず、日ソ間での同地域の帰属問題は未決着。 <p>(P144図表『北方領土の面積』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の総面積と日本の総面積に占める北方領土の割合について掲載。 <p>(P144図表『北方領土元居住者数』)</p> <p>(P144地図『北方領土・千島列島の島々』)</p> <p>(P187図表『世界の国一覽』注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積および人口密度計算に用いた面積には、北方領土および竹島を含む。 <p>(P196図表『日本の県別統計』注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の面積には北方領土(歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島、合計5041.91km²)を含む。全国の面積には、北方領土・竹島および上記の十和田湖(61.021km²)と境界不明分の面積を含む。人口密度については、全国は北方領土・竹島、北海道は北方領土、島根県は竹島の面積を含んで算出している。 	<p>(P112『日本の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域として竹島が示されている。 <p>(P184・P187図表『世界の国一覽』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積および人口密度計算に用いた面積には、北方領土および竹島を含む。 <p>(P196図表『日本の県別統計』注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県の面積には竹島(0.21km²)を含む。全国の面積には、北方領土・竹島および上記の十和田湖(61.021km²)と境界不明分の面積を含む。人口密度については、全国は北方領土・竹島、北海道は北方領土、島根県は竹島の面積を含んで算出している。 	<p>(P113『日本の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域として尖閣諸島が示されている。

※我が国の領域をめぐる問題として、ここでは「北方領土」及び「竹島」に関わる記述の概要について調査した。
「その他」については、「北方領土」及び「竹島」以外で、我が国の領域をめぐる問題の扱いについて、特記すべき事項があれば記載している。

「別紙2-3」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 国旗・国歌の扱い】(地図)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	301	新高等地図	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
帝国	309	標準高等地図 -地図でよむ現代社会-	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	裏表紙 見開き地図 本文	P1~3 その他のアジア P136~142 アジアのおもな国の国旗と概要	・世界の国の国旗を紹介する中でASEANやOPEC以外のその他のアジアとして掲載している。 ・アジアのおもな国の国旗と概要を紹介する中で、我が国の概要と国旗を紹介している。「日の丸」「日章旗」ともいわれ、太陽を象徴したもの。民間では明治はじめてから使用
帝国	310	新詳高等地図	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	見返し 見開き地図	P2 おもな国の国旗	おもな国の国旗を紹介する中でアジアの国旗の一つとして掲載している。
二宮	311	詳解現代地図	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
二宮	312	基本地図帳 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	本文	P9 世界の国々基本データ	世界のおもな国の国旗を紹介する中でアジアの国旗の一つとして掲載している。
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景-	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P2図表	おもな国の国旗	・主な国の国旗を紹介する中で、我が国の国旗を掲載している。
二宮	314	高等地図帳 改訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P19本文	世界の国々	・世界の国々の概要と国旗を紹介する中で、我が国の国旗を掲載している。

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (地図)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	301	新高等地図	有 無	P.89 地図 P.122 地図	資源と産業 日本	・『エネルギー資源』 ・『発電所の分布①』 ・『発電所の分布②』
帝国	309	標準高等地図 -地図でよむ現代社会-	有 無	P113 コラム P113 コラム P114 コラム	・かたよるエネルギーの消費 ・原子力発電の現状 ・次世代を担うエネルギー	・エネルギー消費は新興国で増加している。とくに経済発展が著しい中国は2010年に消費量世界一となった。エネルギーをめぐる中国の動向に世界の注目が集まっている。 ・チェルノブイリ原発事故(1986年)や東日本大震災による福島原発事故(2011年)を受け、脱原発を推進する国がある一方、地球温暖化対策として新たに導入を目指す国もある。原子力の管理は国際的課題である。 ・化石燃料への依存を弱め、エネルギー源の多様化と地球温暖化対策の一環として再生可能エネルギーの導入が進んでいる。一方、豊富な埋蔵量を持つといわれるシェールガスも、次世代エネルギーとして期待されている。
帝国	310	新詳高等地図	有 無	P33 主題図 P78 主題図 P.133、P.134 図表 主題図	・西アジアの産油国 ・バイオエタノールの生産 ・シェール層の分布 ・エネルギー資源の生産と消費 ・原油、天然ガスの生産と消費	・ペルシャ湾沿岸の原油輸出状況を地図とグラフで示している。 ・北米の・バイオエタノールの生産・シェール層の分布を図示 ・エネルギーの貿易を流線図を用いながら示している。 ・表で国別の一次エネルギーの生産量や消費量が掲載されている。
二宮	311	詳解現代地図	有 無	P47 主題図 P85 主題図 P136 図表 P136 写真	・ペルシャ湾周辺の石油資源 ・北アメリカのシェールガス・シェールオイル ・石炭・石油・天然ガス・ウラン産地とエネルギー消費、1人当たり電力消費量	・ペルシャ湾沿岸の油田、天然ガス田の分布、1人当たりGDP、GDPに占める石油収入の割合等が掲載されている。 ・北アメリカのシェールガス・シェールオイルの分布の分布が掲載されている。 ・世界の石炭・石油・天然ガス・ウラン産地とエネルギー消費を、流線図を用いて示している。また、それぞれの資源ごとに主な産出国と消費国が帯グラフで示している。 ・世界の1人当たり電力消費量や主な国の発電量が分布図で示されるとともに、世界の発電量構成、新エネルギー構成が円グラフで、風力発電と太陽光発電の発電量推移がグラフで示されている。 ・デンマークの風力発電所、ドイツの太陽光発電
二宮	312	基本地図帳 改訂版	有 無	P48・49 写真 P107 図表 P.124、P.125 図表、写真	・ヨーロッパの発電所 ・おもな発電所 ・石炭、石油、天然ガス、ウラン産地とエネルギー消費 ・電力 ・アメリカのシェールガス・シェールオイルの分布	・原子力発電所の他に太陽光、風力、地熱、水力発電所の写真 ・日本の主な発電所や電力の内訳の推移が示されている。 ・主な産地やエネルギーの貿易を流線図を用いながら示している。 ・各国における電力の使用量やおもな発電の内訳を階級区分図で示している。 ・シェールガス・シェールオイルの分布がアメリカやカナダに限って示されている。
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景-	有 無			
二宮	314	高等地図帳 改訂版	有 無	P119主題図	石炭・石油・天然ガス・ウラン産地とエネルギー消費	・世界の石炭・石油・天然ガス・ウランの産地と石油の移動、1人当たりのエネルギー消費量を掲載している。
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	有 無	P170地図	エネルギー資源	・世界のエネルギー資源の分布と石油の移動の主題図、原油・天然ガス・ウラン鉱の産出量、原油・天然ガス・ウラン鉱の確認埋蔵量を掲載している。 ・原油、天然ガス、ウラン鉱の産出量と確認埋蔵量について掲載している。

「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (地図)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	301	新高等地図	有 無	P.14地図 P.14地図 P.19地図	・ソウル ・朝鮮半島 ・ペキン	・オリンピック公園 ・オリンピック大橋 ・88オリンピック高速道路 ・オリンピックスポーツセンター
帝国	309	標準高等地図 -地図でよむ現代社会-	有 無	P18 ワンポイント解説 P96	・ソウル ・ピョンチャン ・東京	1998にはオリンピックが開催された。 2018年冬季オリンピック開催予定地 2020年東京オリンピック・パラリンピックのおもな会場予定地を地図上に掲示
帝国	310	新詳高等地図	有 無	P84地図	・リオデジャネイロ	凡例に「リオデジャネイロオリンピックの主な競技場」とあり、地図上に囲みで示されている。
二宮	311	詳解現代地図	有 無	P26 地図 P26 写真 P125 地図	ペキン周辺・長江下流域・珠江下流域 ・東京オリンピック2020開催予定地	・2006年北京オリンピックのメインスタジアムの写真を掲載
二宮	312	基本地図帳 改訂版	有 無	P99 P136	・東京オリンピック2020開催予定地 ・オリンピック一覧	・東京の地図上に競技会場をプロット ・過去のオリンピック開催地の地図の掲載場所を掲示
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的 背景-	有 無	P16地図 P117~118 地図	ペキン 現在の東京	・国家スタジアム鳥の巣 2008年ここをメイン会場にペキンオリンピックが開催された。 ・オリンピックスポーツセンター ・オリンピック記念青少年総合センター ・2020東京オリンピック・パラリンピックのおもな会場予定地 (夢の島、国技館、日本武道館、神宮外苑、新国立競技場(建設中)、国立代々木競技場)
二宮	314	高等地図帳 改訂版	有 無	P100地図	東京	・オリンピック記念青少年総合センター
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	有 無	P103地図 P151地図 P153地図	ソウル 新宿～渋谷 東京	・ソウル総合運動場オリンピックスタジアム ・オリンピック記念青少年総合センター ・オリンピック記念青少年総合センター

「別紙3」【(2) 構成上の工夫】(地図)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	301	新高等地図	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の主題図では同じ縮尺で16枚の図が示されている。 ・インデックスが使用されていて地域を確認しやすい。写真が適宜配置されている。主題図の関連図が示されている。 ・国名は縁取られており、フォント、色、書体を凡例の種類ごとに变化させている。 ・環境生態図、地勢図、土地利用図を適切に組み合わせ掲載している。また、適宜、鳥瞰図と断面図が掲載されている。
帝国	309	標準高等地図 -地図で読む現代社会-	<ul style="list-style-type: none"> ・A4判の大判サイズであることや、カラーユニバーサルデザインの配慮によって、地図や資料がより見やすく工夫している。 ・環境、経済、社会、国際、日本の5分野、12テーマを取り上げ、「ねらい」、「ナビ」等で、世界の諸課題について考えられるように工夫している。 ・宗教や民族に関する主題図を設けることで、正しい異文化理解と日本文化への理解を図れるように工夫している。 ・世界20都市、日本13都市の都市図を掲載することで、都市の様子をつかめるように工夫している。
帝国	310	新詳高等地図	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の冊子よりも大判となり、図幅が広い。 ・一般図に、土地利用図などを加えることで、多くの主題図が掲載されている。 ・「GLOBAL EYE」として、動態地誌に対応したページが設けられている。
二宮	311	詳解現代地図	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図とともにグラフも多く掲載されている。領土問題のコラムが掲載されている。 ・地形に関する図が写真とともに掲載されており、実物がイメージしやすい。立体視できるものが掲載されている。 ・一般図の国名、都道府県名などは赤字でポイント数が大きく分かりやすい。地形名のポイント数が大きい。主題図名は枠で囲われており、番号が振られている。 ・インデックスが大項目は横、中項目は上部に示されており、色分けしてまとめられている。
二宮	312	基本地図帳 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・A4判という大判サイズであることや、地名が白枠で縁取られており、読み取りやすい。 ・一般図に重点が置かれており、地名やその位置関係が分かりやすく掲載されている。 ・写真が多く掲載され、視覚的な効果が高い。
帝国	313	地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景-	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史をみる手がかり」という資料では、過去の地図とともに年表も掲載されている。 ・鳥瞰図が取り入れられるとともに、「やってみよう」という作業が各所に取り入れられている。 ・一般図、主題図共に歴史的な地名も掲載されている。また、写真も適宜掲載されている。 ・地名や航路などについて説明が掲載されている。
二宮	314	高等地図帳 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図の数が絞られており、一つ一つの主題図が大きい。 ・東京の市街図が1/10万の都市図と東京の地形の地図から成り立っている。 ・一般図の国名や都道府県名、主な地形名のポイント数が大きく、文字が縁取られている。 ・大陸を大観するなどの広い範囲の一般図が掲載されている。
二宮	315	新コンパクト地図帳 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・一般図と共に都市図が豊富に掲載されている。 ・世界の地形や小地形、主題図や統計が巻末にコンパクトにまとめられている。 ・一般図の国名や都道府県名のポイント数が大きく、振り仮名が付されている箇所がみられる。 ・冒頭に、「世界の国々」において、世界の国々のデータと各国の概要を掲載し、各国の状況を把握できるよう工夫している。